

第3回大井川流砂系総合土砂管理計画検討委員会

議事要旨

日時：平成30年2月28日(水) 14:00～15:30

場所：静岡県男女共同参画センター あざれあ

【議事】

1. 土砂動態モデルの構築
2. 各領域の土砂移動の分析
3. 今後の予定

【議事要旨】

1. 土砂動態モデルの構築

事務局説明 事務局より、土砂動態モデルの構築について説明

主な意見等 ■計算モデル

- 「大井川の特徴から、一次元には限界があるため、モニタリングが揃ってきた段階で、将来的には、低水時の流砂量を合わせる等のモデル改良を進めることを前提とした方がよい」旨の意見。

■再現計算結果

- 「過去の砂利採取箇所を想定しながら同定していく過程において、砂利採取を実施していた年代と実施していない年代に分けて整理するなどにより、分かりやすい説明とした方がよい」旨の意見。
- 「計算の粒度分布は、河口部付近で砂が増大する傾向となるが、実態の傾向と合っているか確認してほしい」旨の意見。
- 「一次元の計算のため、小規模流量時の水位は合わないが、モデルの適用範囲を踏まえた検討が必要であるため、流量規模との関係性を示すとよい」旨の意見。

■河口流出量、海岸モデルとの受け渡し

- 「土砂動態モデルで算出した河口流出土砂量と、海岸の等深線モデルで用いる河口流出土砂量との整合を図っていく必要がある」旨の意見。
- 「河口流出土砂量の大半を占める粒径集団Ⅰ（ウォッシュロード）は、港湾の泊地には溜まるが、海岸の地形にはあまり関係しないため、粒径集団Ⅰの量については、目的に応じて求める精度が異なる。
- 「粒径集団Ⅱ、Ⅲが海岸に寄与すると思われる」旨の意見。
- 「砂利採取の有無によって、河床変動計算から算出される河口流出量の幅がどの程度あるかを確認してほしい」旨の意見。

■モデルの精度向上

- 「海に流出する土砂は細かな成分が多いため、河川の中はほぼ通過している。今後の調査により、この細かな成分の支川からの流出量などの精度を上げていくとよい」旨の意見。
- 「粒径集団Ⅰは、流出量やダム捕捉量を仮定で与えているため、出水時の採水調査をしてデータを蓄積していくのがよいが、労力がかかるため、粒径集団Ⅰが大井川にとってどの程度重要なのかというバランスも必要である」旨の意見。
- 「流砂の境界条件の与え方によって、各区間の応答がどの程度変わるのかを感度分析などで把握しておく」とよい」旨の意見。

2. 各領域の土砂移動の分析

事務局説明 事務局より、各領域の土砂移動の分析について説明

主な意見等 ■土砂収支図、土砂動態

- 「海岸で必要な粒径集団Ⅱは河道を素通りするが、今後はもう少し細分化した見方も必要かもしれない」旨の意見。
- 「粒径集団Ⅲ、Ⅳは、河道の流下能力の問題に繋がっており、河道の中での調整によって問題解決を図ることが、次の対策検討における課題になると思われる」旨の意見。

■将来予測

- 「本モデルは長期的なトレンドを予測するものであり、大規模土砂生産や超過洪水時については、本モデルでの検討は難しく、別途、検討が必要になると思われる」旨の意見。
- 「将来予測で想定する外力条件は、過去のデータに基づいて決めるのが妥当と思われる。外力条件の期間は、選択的にしすぎない方がよい」旨の意見。
- 「土砂管理上の対策にあたり、土砂還元等以外にも、砂利採取の場所や規模を調整することで、海岸への供給の増大につながらないかという観点でも検討してほしい」旨の意見。

3. 今後の予定

事務局説明 事務局より、今後の予定について説明

主な意見等 ● 特になし

以 上